

学部・学科の教育研究上の目的及び基本方針

経営学部 国際経営学科（2014年度入学者に適用）

教育研究上の目的

本学部は、個人の人格と学問の自由を尊重しつつ、世界各国のさまざまな経営風土において活躍するために必要な教養と経営学に関する学識を身に付け、国際社会で求められる問題解決能力とコミュニケーション能力を有する実力ある人材の育成を目的とする。

教育目標

本学の教育目標及び本学部の教育研究上の目的等を踏まえ、経営学部国際経営学科ではグローバル化する経済社会においてこれから真に国際人として活躍できる人材を育成するために、初年度教育の強化、語学学習の習熟度別集中授業展開、少人数ゼミナールの必修化、双方向授業の拡充、専攻科目の英語による授業開講数の増大、学生の一人ひとりのキャリア形成に活かせる体験型学修の提供、そして海外大学での長短期にわたる学修機会の多様化と海外からの留学生の受け入れ強化をとおして、経営学に関する広範な学識をもとに、世界各地の異なる経営風土のなかで発生する諸問題の的確な把握と分析力を身につけると同時に、問題解決に向けて国際社会のさまざまな場所で人々の協働を発意し、うながすことのできる実践力とコミュニケーション能力を身につけることを教育目標として定めます。

ディプロマ・ポリシー

（学位授与の方針）

本学科のカリキュラムにおいて、授業科目や卒業論文を含む演習科目を合わせて4年間に所定の卒業要件単位を修得した者は、次に掲げる知識や能力を身につけていると判断し、学士（国際経営学）の学位が授与されます。

1. 経営学全般にわたる知識と広く「国際経営」に関する専門的学識
2. 世界各国のさまざまな経営風土において活躍するために必要な教養と語学力
3. 複雑多様な問題の本質を究明し、創造的・主体的に解決する実践的能力
4. 自己の意見を形成し、明確に表現し伝達できるコミュニケーション能力

カリキュラム・ポリシー

（教育課程編成・実施の方針）

本学科では、世界各国で活躍するために必要な教養と経営学の学識を備え、問題解決能力とコミュニケーション能力を有する実力ある人材を育成するために、多彩な教育スタッフによって計画的・組織的に、以下に示した方針で教育課程を編成しています。

1. 教育課程の編成

本学科の教育課程は、必修科目群と選択科目群の2群から構成されます。必修科目群は入学初年次生を対象に、本学科で学ぶことになる国際経営に関する基礎的な科目群（「エントリー科目」7科目）から構成され、ほかに3・4年次生対象の専門演習（～）があります。選択科目群は、経営学、会計学、国際関係、情報、スポーツ科学など専門科目ごとにまとめた15の科目群（「ショップ科目」）から構成されています。専門ショップ科目の多くは2年次配当となっていますが、一部は1年次後期あるいは3年次配当となっており、同じショップ科目についてはナンバリングを付すことで、学生による履修の順序や体系性に配慮しています。

2. 教育内容の特色

充実したショップ科目群や副専攻制度を通じて、バランスのとれた知識の修得と幅広い視野の涵養に努めます。また、3・4年次で必修の「演習」（ゼミナール）における少人数徹底指導によって、問題の本質を究明し解決する実践力とプレゼンテーション能力を養成します。さらに、体験型学修科目群を充実させることで、座学で学んだことを実体験として現場で検証し、これをふたたび勉学の場で深めるという論理と実践の環を強化しています。他方、学生の長短期の海外学修機会を学部独自で開拓、充実することで、国際人として活躍できる自信と実力を身につかせます。

3．教育指導の方法

学生個人個人がみずから将来のキャリア設計をするなかで、それにふさわしい専門ショップを15のショップから自由に選ぶことができます。その反面、ショップのつまみ食いとならないように、選択ショップの必要履修科目数を設定し、専門性と体系性を深めていくことができるようにしています。また、第2セメスターに「キャリア・ワークショップ」を設け、みずからのキャリア形成とショップ科目の選択についてきめ細かく指導する体制を整えています。共通教養課程におかれている初年次ゼミの「ファースト・イヤー・セミナー（FYS）」および経営学部独自の第3セメスターに置かれている「教養演習」の少人数ゼミナールを通して、学生の学修上の課題解決に取り組み、日常的な学修活動をサポートします。